

## 国際博物館の日記念

# 「大阪市博物館フォーラム 2010

## 新たな可能性を求めて」

大阪市は昭和の初めから、さまざまな専門分野の博物館を整備するとともに、平成19年度からは、<sup>エイトオン</sup>8 ON (The Osaka 8 Museums' Network) の名のもとに8つの館園等が連携し、共同広報やイベント実施を通じて、総合力の発揮をめざしてきました。

また、より一層の連携効果を引き出すため、平成22年4月から、新たに財団法人大阪市博物館協会を設立し、大阪歴史博物館・大阪城天守閣・大阪市立美術館・大阪市立東洋陶磁美術館・大阪市立自然史博物館の5館の運営を一体的に行うことになりました。

これを契機に新法人が、引続き80Nの館園等と協力しながら、これからめざすべき方向や活動をお披露目するとともに、我々に対する関係各界からの期待やご意見をいただく機会を、下記の通り持つことといたしました。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日 時：平成22年5月16日（日） 13時～16時45分 開場は12時30分  
場 所：大阪歴史博物館 4階講堂（大阪府中央区大手前4-1-32：裏面地図参照）  
定 員：250名（先着順） 参加費：無料

開会あいさつ

【第1部】新たな博物館をめざして

私たちのめざすもの（大阪市立自然史博物館 山西 良平）

【第2部】新たな博物館への期待

博物館関係者から（国立民族学博物館 五月女 賢司 氏）

事業パートナーから（毎日新聞社 高市 純行 氏）

大学関係者から（大阪市立大学 仁木 宏 氏）

地元や市民連携の関係者から（株）140B取締役編集責任者／

著述家 江 弘毅 氏）

【第3部】総合討論

閉会あいさつ

主 催：財団法人大阪市博物館協会・大阪市

共 催：財団法人大阪科学振興協会

後 援：財団法人日本博物館協会

お問合せ先：財団法人大阪市博物館協会 総務部 事業企画課（電話：06-6940-0550）

大阪市の博物館・美術館情報 <http://www.museum.city.osaka.jp/>

## 講演者紹介

### ○五月女 賢司（さおとめ けんじ） 国立民族学博物館 文化資源研究センター機関研究員

【専門分野】博物館教育学

【関連業績】(論著)「市民とともに育つミュージアム—究極の参加型博物館『Web2.0としての博物館』を目指して」『ミュゼ』Vol.90 2009年  
(展覧会)『年末年始展示イベント・展示活動研修会』の共同提案者 2008～2010年  
(シンポジウムの企画)「関西から博物館・図書館の元気を発信する」の実行委員 2009年

【今回の企画への期待】

博物館は誰のものか。そして誰のためにあるのか。本フォーラムが、展示する側（協会や行政）、展示をみる側（市民）、展示される側（芸術家、動植物、先人にまつわる人たち）などの間で議論を深めるきっかけになればと思っています。

### ○高市 純行（たかいち よしゆき） 毎日新聞社総合事業局 文化事業部副部長

【専門分野】美術展を中心とした文化イベント

【関連業績】(展覧会)「ミレーとバルビゾン派の画家たち展」「フェルメールとその時代展」「雪舟展」「円山応挙展」「祈りの道展」「阪神タイガース展」「狩野永徳展」「国宝 三井寺展」「長谷川等伯展」など。

【今回の企画への期待】

これまで大阪市的美術館・博物館と共催で多くの展覧会を開催してきました。コレクションの豊富さ、学芸員の能力、施設の利便性など各館のポテンシャルは非常に高いと思います。今回の一体運営の改革に期待しています。

### ○仁木 宏（にき ひろし） 大阪市立大学大学院文学研究科・教授

【専門分野】日本中世史、都市史

【関連業績】(論著)『難波宮から大坂へ』共編、和泉書院、2006年、「都市空間をめぐる近世と古代・中世—新しい都市大阪像の試み—」(都市文化創造のための比較的研究)、大阪市立大学都市文化研究センター、2008年

【今回の企画への期待】

大学としてどのような地域貢献が可能か考えた時、大学が生み出す最新の研究成果を、より平易により深く市民のみなさんに伝えることはとても重要です。博物館施設との連携に期待を高めています。

### ○江 弘毅（こう ひろき）(株)140B取締役編集責任者／著述家

【専門分野】メディア・コミュニケーション論、まちづくり論

【関連業績】93～05年『ミーツ・リージョナル』編集長、(株)京阪神エルマガジン社取締役編集本部長を経て、06年編集出版集団(株)140B設立。『月刊島民』編集発行人、『ナカノシマ大学』塾頭。著書『「街的」ということ』(講談社現代新書)、『街場の大阪論』(バジリコ)ほか。

【今回の企画への期待】

「街場レベル」で人々が「われわれ地元の文化・芸術施設」という意識をもつことができるかということ、市場原理主義、経済合理性が求められる世相の下、諸施設の「新しい存続意義」がそれとどうリンクするか。



会場：大阪歴史博物館 4階 講堂  
(最寄駅)地下鉄谷町線・中央線「谷町四丁目」駅下車  
⑨号出口前  
大阪市営バス「馬場町」バス停前